

事務事業評価表（補助金等）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年6月28日
2次評価日（課長等）	30年6月28日

1 事業名	郷土学習館活動支援事業補助金			事務事業コード	103112	
2 担当部課	部等	教育委員会	課等	生涯学習課	担当者	勝野 哲矢
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	生涯学習の推進	施策	社会教育の充実	
		事務事業	郷土学習館活動支援事業補助金			
		予算科目	社会教育振興事業	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
	根拠法令等	岡谷市郷土学習館補助金交付要綱（平成11年告示第23号）				

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	28 年度 ~ 30 年度
補助金の種別	外郭団体補助	③ 対象	市民団体、NPO等
④ 制度の内容	NPO郷土学習館運営委員会が行う郷土学習館の管理運営及び改築等に対し、市がその経費の一部を補助（要綱第1条）		
⑤ 積算方法	以下の(1)～(3)について、補助率2/3以内で積算（要綱第3条） (1)管理運営に要する経費…補助限度額200万円 (2)前面改築に要する経費…補助限度額400万円 (3)部分改築、増築又は大規模の修繕・模様替に要する経費…補助限度額200万円		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	明治～昭和にかけて国政に貢献するとともに長善館や長地小学校等へ私財を投じて郷里に貢献した渡辺家の3大臣、薬草の権威である永田徳本、全財産を投じて汐の開削に尽くした武井五兵衛など、郷土の優れた偉人の功績を市民に知ってもらう。 （市民が郷土について学ぶ場を提供する。）		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	1	1	1	1
実際の支出件数	1	1	1	
執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
② 金額（円）				
予算額	1,800,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
財源内訳				
一般財源	1,800,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	1,800,000	1,500,000	1,500,000	
予算執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
支出額の前年度比		83.3%	100.0%	

③ 29年度の交付先
 NPO郷土学習館運営委員会

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ		
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5	
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1			
③	全ての対象者に交付している。	1			
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1			
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1			
⑥~⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		高い	
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。	1		10	
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。	1			
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。	1			
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。	1			
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、用途を検証している。	1			

7 有効性評価		* 有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性 標準	
評価項目		はい	いいえ		
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1			
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1			
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1			
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1			
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比		

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	・ 利用者の拡大、市民の利用機会の拡大
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	・ 地元マスコミを通じた施設や事業のPRを行う。
改善開始時期	平成30年度

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------